

ReadyNAS OS6 におけるホットスペアディスクの設定方法

ReadyNAS OS6 では、ホットスペアとしてディスクを設定できます。ホットスペアとは、ボリューム内のディスクに障害が発生した時に、障害ディスクに代わりホットスペアディスクが自動的にデータディスクとして切り替わるディスクのことです。

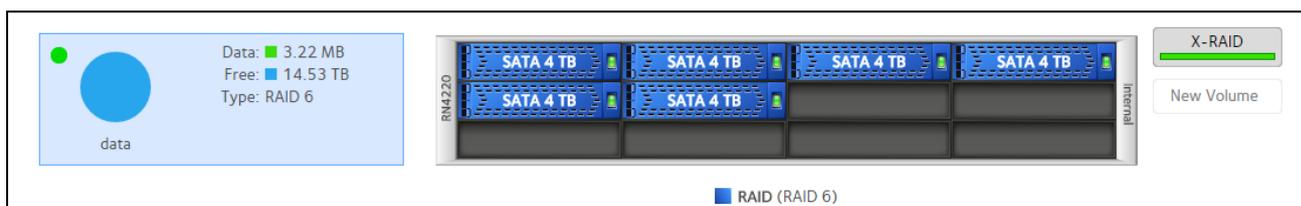
ホットスペアを設定する場合、ReadyNAS を Flex-RAID モードに切り替える必要があります。既定では X-RAID となっています。

手順としては、

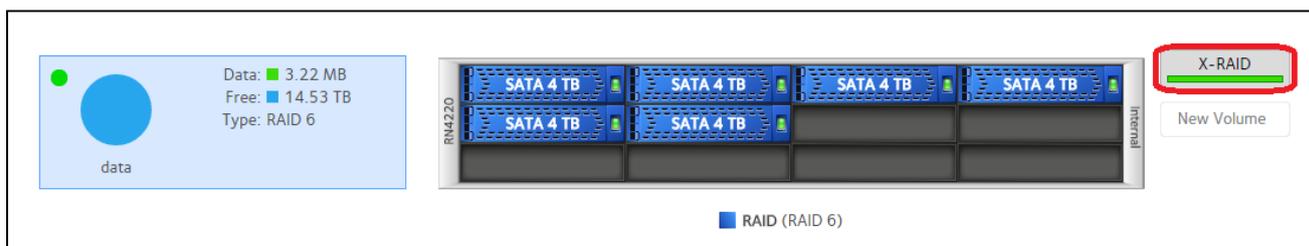
1. Flex-RAID モードへ切り替える
2. 新しいディスクを開いたスロットへ差し込む
3. 新しいディスクは自動的にホットスペアディスク

となります。特に何か特別設定を行うといったことはありません。

例として RN4220 に 4TB のディスクが 6 本、X-RAID で稼働しています。



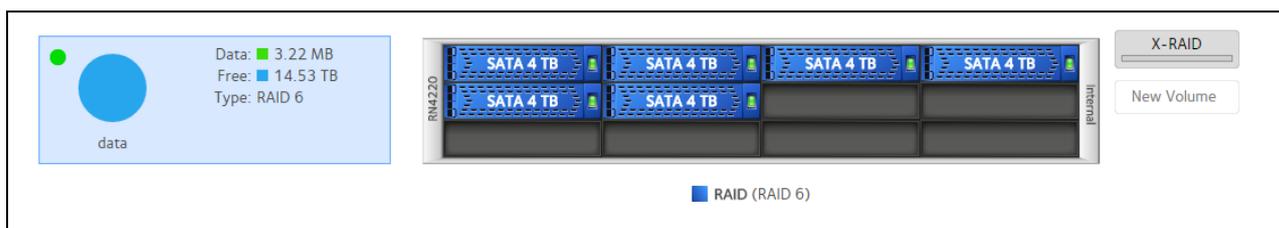
1. X-RAID を無効にします。赤で囲んでいる "X-RAID" をクリックします。



2. 下記のような表示が出力されますので、“はい” をクリックします。

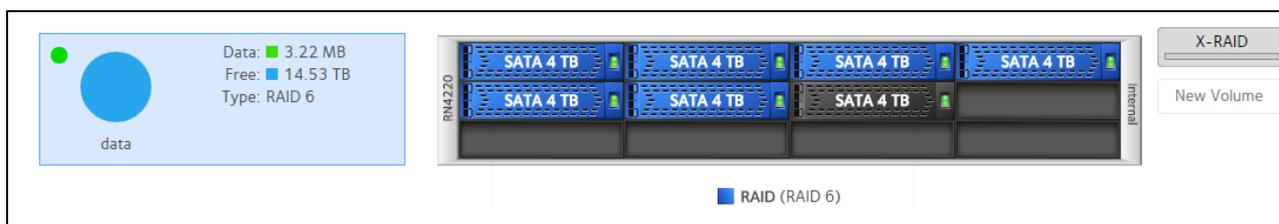


3. X-RAID ボタン下の緑色が灰色に変わります。これで X-RAID が無効になり、Flex-RAID に切り替わったことを示します。



4. 新しいディスクを空いているスロットへ差し込みます。

※追加するディスクは既存で入っているディスクサイズと同等かそれ以上の容量が必要となります。



これで追加したディスクはホットスペアとして機能します。

ディスク障害が発生した場合、今回追加したホットスペアがデータディスクとなり、障害ディスクを交換した時点でそのディスクはホットスペアとして機能します。

注意点：拡張ユニット（EDA500）を使用している場合、拡張ユニット内のディスクをホットスペアとして使用することはできません。使用可能なものは ReadyNAS 本体内のディスクのみとなります。